

図書館だより

名古屋経済大学 図書館
名古屋経済大学短期大学部

2010.4 Vol.59

Every extension of knowledge arises from making the conscious the unconscious.

Library News

Our business in this world is not to succeed, but to continue to fail in good spirits.

Library News

特集
貴重本紹介

貴重本紹介シリーズ 11 高桑純夫・真下信一監修 『現代哲学サイクロペディア』

contents	
目次	



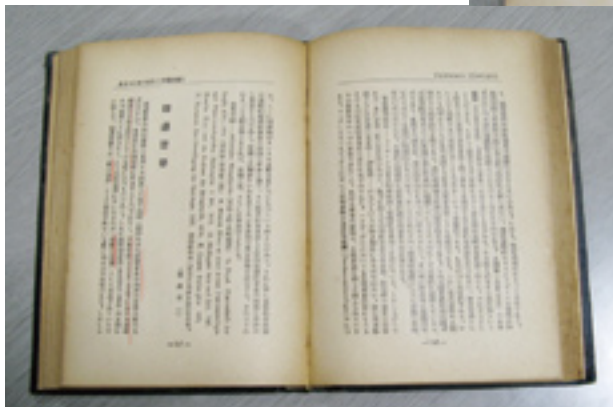
きこうほん
稀覯本とはめったに見られない
珍しい本だが、東北大の狩野文庫
にある国宝の書物など、わが図書館
にはない。そこで別の角度から紹介
しよう。それは『現代哲学サイクロ
ペディア』(1949年、民友社)である。
監修者のお二人が市邨短大の大学
祭に講演に来てくださったことを思
い出す。

明治の末から大正にかけて哲学
の時代を迎えた。日本は西洋哲学
を学んで西田哲学を生んだ。その
西田幾多郎が「よふけまで 又マル

クスを論じたり マルクス故に いねがてにする」といって唯物
弁証法に強い関心を抱いた。あのころから戦争に敗れ、思想の
自由が復活して以後までの現代哲学の概括的な理解を六十有余
の項目で解説している。

特色のあるテーマと筆者をあげよう。京都学派(船山信一) 現
代日本の哲学者(伊東康二) 主体性論、三木哲学(高桑純夫) 西
田哲学(淡野安太郎) 観念論(真下信一) 絶対弁証法(梅本克己)
プラグマチズム(久野収) 言語哲学(鶴見俊輔) マルクス主義(小
松攝郎) 実存主義(赤
岩栄) などである。

外国哲学の単なる
祖述でなく、日本人に
よる時代精神を集中
的に表現した哲学の
諸断面を知るための、
よきテキストとなろう。



随想 2
経営学部教授 三浦 東

国内外の図書館 3
大学院法学研究科教授 岩崎 一生

読書ガイド 4
法学部教授 庄司 節子
経済学部教授 宮川 昇
人間生活科学部教授 安藤 悦夫
短期大学部准教授 関谷みのぶ

学生コーナー 6
法学部 岡安 伸晃
経済学部 塩原 浩章
経営学部 岡本 智司
短期大学部 森 愛未

図書館からのお知らせ 8



名古屋経済大学名誉教授
鈴木 正



CFRP切削加工の事例が意味するもの

経営学部 教授 三浦 東

皆さんは「CFRP (炭素繊維強化プラスチック)」という材料をご存知だろうか。一般的に「カーボン材料」とも呼ばれています。鉄と比べて重量は4分の1と軽く、鉄の10倍も強い材料なのです。軽くて強いしかもしなやかで柔軟性にも優れている夢の材料なのです。消費エネルギーの低減や低炭素社会の実現には大変有効な材料であり、20世紀の鉄に変わる21世紀の工業材料の代表選手として期待されています。しかも日本は世界で生産しているCFRPの約70%を占めています。ダントツに日本が強いのです。

軽くて強い材料はどの製品でも求められています。しかし今は大変高価であるため使用量が少なく製品価値が高いゴルフクラブ、テニスラケット、釣竿、スキーやスノーボードなどのスポーツ用品や高価な材料であっても軽量化の価値が高いジェット旅客機の機体、F1、や一部の高級スポーツカーの車体などに使用されています。将来一般の自動車、電気自動車、鉄道車両すべての移動体に利用できれば消費エネルギーの低減だけでなくそれらは新材料を用いた日本独自の新製品として世界市場に競争力を示せます。

CFRPが優れた特性を持つにもかかわらず一般に普及していないのは生産コストが高いからです。コストが高い大きな原因は切削加工の難しさにあるといわれています。軽くて強い材料は物質同士の結合が極めて強固です。鉄やアルミと同じように工具で削ろうとすると切削面は繊維が引きちぎられたバリののように毛羽立ってきます。日本の金属加工業は鉄、アルミ、銅などでこれらの金属を切削加工する経験を重ねてきています。ところがボーイング社のB787の機体製作を請け負っている国内大手重工業ですらCFRPの切削加工に成功していません。材料が代

わったにもかかわらず金属を加工する同じ方法で加工しようとしたことが落とし穴になりました。

ところが徳島県にあるわずか従業員35名の(株)アスカという機械加工業者は1983年以来CFRPの加工に取り組み始めていたのです。CFRP専用のドリル、エンドミルなどの工具を自ら製作、さらに工具を研磨する専用の砥石まで開発したのです。工具の自作改良能力をもつようになったアスカは開発した工具で次々とCFRP切削の「トライ＆エラー」を繰り返し、豊富な加工データを蓄積してきたのです。地方の中小加工業者であるアスカがなしえて、あまたの大手メーカーがなしえなかったのはなぜでしょうか。

今までの成功体験を捨てて新たに試行錯誤を始めることは「失敗するかもしれない」というリスクを覚悟しなければなりません。経営者には勇気と覚悟と成功への信念が求められます。大企業ほど経営の安定を優先して改革に乗り出せず臆病になりやすいのでしょうか。私たちの企業社会も過去の成功体験に安住しないで新しい海に乗り出す船出の勇気が必要だと「アスカ」は教えているように思えます。



▲ CFRP で作られた F1 レース車両 (車体重量は約 620kg)



LexisNexisと私



大学院法学研究科 教授 岩崎 一生



誰しもある程度人生を経過すると、いくつかの忘れえぬ出会いをもつことになるが、LexisNexisとの出会いは、私にとって終生忘れえぬもののひとつである。

LexisNexisと初めて出会ったのは、今から約30年以前の1981年の秋であった。当時、フルブライト奨学金による上級研究員としてニューヨーク大学法科大学院で米国商事仲裁法の研究に従事しており、一日の大半を図書館で過ごすことが多かった。

当時、ニューヨーク大学では、LexisNexisの端末を図書館内に新たに設置したばかりで、図書館の掲示板にLexisNexisの操作方法についての講習会の案内が出ていた。ニューヨークに来る以前から、米国では判例のコンピュータによる検索が始まっているとは聞いており関心を持っていたが、その実物を経験したことはなかったので、早速申し込んでみた。

この講習会は徹底したもので、受講者一人にLexisNexisのインストラクター一人がつき、LexisNexisの端末を独占的に3時間使用して、端末の使用法とLexisNexisデータベースの検索手法についての説明と実習が行われた。おかげでよく理解することができ、ただちにLexisNexisに魅了された。

その時のLexisNexisの端末は、今日では想像しに

くいことではあるが、大型の事務机ほどの大きさがあり、ニューヨーク大学図書館にまだ一台しかなかったため、利用は時間予約制で、しかも一回の利用は30分に限定されたので、満足いくまで利用することはできなかったが、研究上たいへんな恩恵を受けることができ、終生忘れえぬ思い出となった。今後は、法律の研究にもコンピュータは不可欠だと痛感して帰国した。

1982年冬に帰国すると日本初のパソコンであるNEC PC-9801が発売されたが、付属機器や必要なソフトを買いそろえると100万円近くの高額になり、さんざん迷ったあげくに、将来のための先行投資として思いきって購入した。しかし、当時はまだインターネットは存在せず、日本でLexisNexisを使用することはできなかった。

日本でLexisNexisと再会し利用できるようになったのは、インターネットが日本でも普及してきた1990年代後半であり、名古屋大学に勤務していた当時であるが、まだ使用料は時間制であり高価であったため、時間と研究費の残額を気にしながらの使用であった。こうした積年の不満感が一気に解消されたのは、本学図書館に2008年LexisNexisが導入されことによる。

LexisNexisを研究室からはもとより、自宅からも使用時間を気にせず年中無休で自由に満足いくまで利用できるようになり、最初の出会いの時から隔世の感があり、21世紀まで長生きしてよかったと思っている。LexisNexisを利用するたびに本学図書館の賢明な決断に感謝しつつ、幸福な気持ちで満足感に浸っている昨今である。

レイチェル・カーソン 著／青樹 築一 訳

『沈黙の春』

(342 頁) (新潮文庫)

(初版の題名『生と死の妙薬』1964)

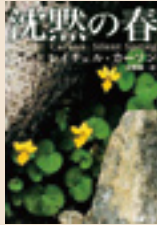
(原著『SILENT SPRING』1962)

有吉 佐和子 著『複合汚染』

(512 頁) (新潮文庫)



法学部 教授
庄司 節子



「私たちの住んでいる地球は自分たち人間だけのものでない」という考えから出発するレイチェル・カーソン (1907-1964) の著書『沈黙の春』は、タイトルどおりに「春がきても自然は黙りこくっている」という不気味さのわけを示し、化学物質による環境汚染を告発した環境問題のバイブルといわれる。はじめて本書を知ったのは、購読していた朝日新聞 1974 年 10 月からの連載小説『複合汚染』(有吉佐和子、1931-1984) の単行本 (1975、新潮社) の紹介によってである。毒性物質の複合がもたらす汚染の実態は大きな反響をあたえたことを今も思い出すことができる。当時、1 歳と 2 歳の年子を抱えた子育ての中で、これらの書によって、農薬などの有害物質が食べ物を通して人体に蓄積され、幼い子どもたちが触まれていくという危機感がひしひしと伝わり、食品の安全性にこだわって生協の共同購入や家庭野菜を始めたのもこの頃からである。

今年の 10 月に、国連 2010 年「生物多様性条約第 10 回締約国会議」(COP10) が身近な名古屋で開催される。この国際会議では、自然は多種多様の生物群が存在することでそれなりの安定を維持し、この生物多様性の保全と持続可能な利用を推進し、自然との共生に向けた環境づくりを促進することがテーマである。

この 2 冊は、初版からすでに歳月が過ぎているが、地球環境全体の危機が叫ばれて生物多様性という言葉が使われる状況に先だって、すでに環境問題が暮らしに直結していることを自覚させてくれた先駆的な警告書として是非、知ってほしいと思う。

本学経済学部の地域社会研究チームは、循環型社会をめざした地産地消研究活動の一環として 2009 年 9 月から本学グラウンド南に有機ハーブ栽培を始めている。この自然豊かな本学キャンパス近辺においても、有機栽培に適した土地は極めて限られているのである。これらの読書や活動によって、一人ひとりがまわりの生き物の存在に気づき、地球は人間だけのものでないことを自覚することになってほしいと思う。

ダンテ 著／平川 祐弘 訳『神曲』

(410 頁 図版 [12] 枚) (河出書房)

ダンテ 原作

バラエティ・アートワークス 企画・漫画

『神曲 まんがで読破』

(190 頁) (イースト・プレス)



経済学部 教授
宮川 昇



世界中で最も偉大な小説家は誰かという問いに対しては、大半の人はトルストイの名をあげるでしょう。では最も偉大な劇作家は誰かという問いには多少の意見の対立は予想されるが、シェイクスピアの名をあげる人が多数派を占めることでしょう。しかし、最も偉大な詩人は誰かという問題は解決がつかないことでしょう。私個人はいつでも「ダンテ」と答えます。なぜならば、あの史上最高の作品『神曲』を書いた詩人だからです。しかし残念なことは、現代においてその史上最高傑作を読んだ人が極めて少ないということです。それが原因で、私は文学関係の講義・講演の機会が与えられた時は、『神曲』に最も多くの時間を使います。

『神曲』とは、主人公ダンテ自身がウェルギリウスを先達として地獄と煉獄を巡り、ベアトリーチェに導かれて天国を訪れたという設定のもとに創作された 100 歌から成る総計 1 万 4233 行の長編詩です。その長さや題名の「抹香臭さ」から読むことを敬遠したくなるかもしれませんが。しかしひとたび読み始めれば夢中になることは必定です。その魅力のほんの一端ですが、三途の川で乗船をためらう亡者たちを渡し守カロンが懼で叩き落とす場面を紹介しましょう。「ちょうど秋の木の葉が / 一葉また一葉と散って、しまいには枝から見ると自分の脱いだものがすっかり地上に落ちてしまう、 / それと同じようにアダムの悪い種は一人また一人と / その岸から合図に応じ、鳥師に呼ばれた鳥のように、飛び降りた」何の変哲もない表現のようにみえるかもしれませんが、この短い詩行の中にダンテならではの着眼の奇抜さがあります。普通「落ち葉」のイメージを使う時は葉の側からしか描かないものですが、ダンテは同時に枝の側からも描いているのです。ダンテは、一見堅苦しく思えるのですが、実は、剽軽(ひょうきん)ともいえるようなユーモアを持っています。とくに『地獄編』は、創造性においても想像性においても史上最高の作品です。できれば長期休暇を利用して一文一文を丁寧に読んでほしいのですが、粗筋だけを面白く知りたいのであれば、『神曲 まんがで読破』を紹介します。

読書ガイド

読書ガイドでご紹介した本は図書館にあります。ぜひご一読ください。

リヴィエル・ネッツ, ウィリアム・ノエル 著
吉田 晋治 訳
『解説!アルキメデス写本』
(442 頁, 図版 12 頁) (光文社)



人間生活科学部 教授
安藤 悦夫

読売新聞に掲載された読書評を読んだとき、久しぶりにわくわくしたのを覚えている。なにしろ、あの中学で学んだアルキメデスの原理のギリシャの数学者・物理学者アルキメデスのことがこの 21 世紀の今、本になっているのだから。早速読んでみると、パリンプセストという聞いたこともない言葉が出てきた。羊の皮に書かれた大昔のオリジナルの本を、現代風に言うところリサイクルして使いまわすことのようにだ。そのオリジナルの文章がアルキメデスの著作（と言って良いかどうか判らないが）の写本だった、というのである。上書きされた文章は聖書のテキストらしいのだが、今の私たちから見れば神様には申し訳ないが、アルキメデスの写本のほうがずっと有難い。オリジナルの部分はしかしかなり傷んでいるらしく、解説に非常な困難と忍耐がともなったその過程がつぶさに語られている。これは現在も進行中でありインターネットでその状況を知ることが出来る。しかし何といっても一番の驚きというより、感心させられたのはこういった一連の作業に対して資金を提供する人間の存在である。この場合はたった一人の IT 長者である（本文ではビル・ゲイツではないと断っている）。こう言っただけでは何だが、単なる好奇心を満足させるだけに終わりそうなことに莫大な資金を提供する、かつての言い方を借りるなら、パトロンが実際にいたという事実が私に大きな感動を与えた。

インターネットのアドレスは <http://www.archimedespalimpsest.org> であるが今はいろいろなリンクが張られているかもしれない。興味のある人はぜひ覗いてみてほしい。



中野 京子 著
『怖い絵』
(246 頁) (朝日出版社)



短期大学部 准教授
関谷みのぶ

「怖い」という感情はその成り立ちによって二つに分けられる。ひとつは、知らないことの怖さ。理解できない未知の現象や、目に見えないものに対する怖さがそれに当たる。もうひとつは、知ったことで滲み出る怖さ。知らなければなんでもなかったのに、知ってしまったが故にその怖さに捕らわれてしまい、元の通りには考えられなくなる蟻地獄のような怖さ。



本書で解説されているのは後者の、よりタチの悪い方の怖さである。西洋絵画の中でも歴史的価値の高い絵画について、画家の生い立ちや性格、当時の時代背景、描かれたテーマの意味、その絵を当時の人々がどう見ていたのかなど、実にさまざまな視点から考察し、その絵が持つ怖さを解説している。個人差はあるだろうが、「この絵のどこが怖いのか」というような絵がほとんどだ。ところが著者の巧みな状況説明や説得力のある解釈、そして、見ているだけではわからなかった怖さの「種」によって、その絵に対する印象はがらりと変化していく。説明と絵を交互に見るうちにその種が芽を出し始め、絵に込められた狂気や不条理が再現されていくのである。怖さの種がどう成長するかは、読者の受け取り方次第であるが、読み終わって気が付けば私の絵画の見方が少し変化していた。以前より芸術というものの深みをより感じられるようになった気がする。

私が持っている絵画や西洋史についての知識など知れたものだが、それでもしっかりと絵の世界に入り込ませてくれる本書の文章は、自分が思っていることを他人に伝えるという意味においても素晴らしいものがある。ぜひ読んで、参考にしてほしい。



コナン・ドイル 著『恐怖の谷』を読んで

法学部 岡安 伸晃

『恐怖の谷』は、1914年に書かれたもので第1部と第2部で構成されています。ホームズシリーズの最後の長編にあたり、ホームズの魅力がたくみに描かれており、頭脳明晰・沈着冷静なホームズが難事件を解決します。ホームズシリーズは、推理するホームズの楽しさが伝わってきます。そして、生涯のライバルとされるジェームズ・モリアーティ教授が事件の鍵となっています。

第1部では、ホームズは、ポーロックなる男から数字が書かれた暗号文を受け取り、「ダグラスという男に危険が迫っている」という内容で、ダグラスは密室状態の部屋で死体となって発見されます。

第2部では、犯人の殺害動機について語られるもので、この事件の10数年前に「自

由民団」と呼ばれる狂気集団が支配する“恐怖の谷”に送り込まれた1人のスパイの物語です。

ホームズシリーズは、読者に対して謎解きを仕掛けたり時には読者を悩ませたりと挑戦的に書いているのです。

この事件は、すべての真相を知ってから二度目の新しい発見ができ、ミステリーは非現実性でありながらもコナン・ドイルはそこはいかにも「非現実性ではなく現実性にあるのだ」と思い込ませてしまうほどこの話は影響があるのではないかと思います。

僕は、この1冊の本ではとうてい語り尽くすことのできないシャーロック・ホームズの世界の奥深さを感じました。ミステリー小説が好きな方はぜひ読んでみてください。



梨木 香歩 著『西の魔女が死んだ』を読んで

経済学部 塩原 浩章

『中学二年の時』という不思議なタイトルに惹かれて読みました。最近再び読んでさらにこの本の良さを実感しました。

だれでも一度は、学校に行きたくない、休みたいと思ったことがあるのではないのでしょうか？わたしもあります。学校がつまらない、勉強が嫌い、部活がつらい、友達・恋人関係のこじれなど理由はいろいろあるでしょう。

この本は中学に進んで間もない夏のはじめ、主人公のまいは学校に行くのが苦痛になりました。ママのママ、日本に住んでいる英国人の大好きなおばあちゃんである西の魔女のもとでしばらく過ごすことになった。おばあちゃんの血筋が魔女の家系だと知り、まいは自分も魔女になりたいと願い、魔女になるための修行を始めます。まいはおばあちゃんから魔女の手ほどきを受け、何でも自分で決めるということを教わ

ります。そうしたおばあちゃんとの生活の中で、まいは少しずつ成長し変わっていきます。

そしてもう一つのテーマがタイトルにもあるように「死」でもあります。

この本から死とは何なのか。死んだあととはどうなるのか、とても考えさせられます。また家族や恋人、友達など普段あたりまえに過していますが、この本を読み改めて周りの人々の大きくて温かい愛に包まれていると強く感じました。自然の溢れる生活がどんなに人の心を癒すのかもしみじみ感じるすることができます。

あたりまえなことなのに、普段忘れがちな大事なことってたくさんあります。この本はそれを思い出させてくれるでしょう。皆さんにもお勧めです。

よし、明日おばあちゃんに会いに行こう。



木村元彦 著『オシムの言葉』を読んで

経営学部 岡本 智司

サッカー 元日本代表監督のイビチャ・オシムの人生を描いた作品です。この本を読んでイビチャ・オシムという人間は、二つの顔があると感じました。

一つ目は指導者としての顔です。いままで指導を受けた選手たちみんなが「オシムは最高の指導者だ」といいます。自分もこの本を読むことによってすばらしい人物だと感じました。その代表的な言葉として「リスクを犯して攻める」という言葉があります。これはサッカーの世界だけでなくほかの世界でもいえることだと思います。

オシムのもうひとつの顔それは家族を大切にするということです。オシムはサラエボ

(旧ユーゴ)の生まれでした。旧ユーゴは複数の民族、言語を持つ国でした。そのせいで内戦がよく起っていま

した。そんなオシムは家族と離れ離れになってしまいます。それでもオシムは監督の仕事をやりながら何とかして家族と再会したいと努力をしている姿が書かれています。その監督の仕事をやりながら家族のことを第一に考える姿にとても感動しました。

もしオシムが病気にならずそのまま2010年のワールドカップまでやっていたらと考えてしまいます。それでも日本のサッカーのために貢献してくれているオシムは自分の尊敬する人物の一人です。



グリム 著『グリムの昔話』(全六巻)を読んで

短期大学部 森 愛未

皆さんは、「グリム童話」と聞いてどんな話を思い出すでしょうか？

有名なところでは“狼と七匹の子やぎ”・“白雪姫”・“ヘンゼルとグレーテル”・“いばら姫”などがあがると思います。

現在、これらの話は子ども向けの話となっていますが、「グリムの昔話」の初版では大人向けの話でした。

しかし、版を重ねるたびに修正・加筆され、子ども向けの話となっていました。

この本には、グリム兄弟が生きているうちにでた最後の版(第七版)に入っている二百あまりの話の中から選ばれた六十ほどの話が入っています。

その中で、一番印象に残っているのが“灰かぶり”です。

“灰かぶり”と聞くと、誰もがペロー作のシンデレラ(ディズニー映画“シンデレラ”の原作)を想像すると思います。

現に、私もそうでした。

しかし、この話は少し違って、魔法使いが出てこなければ、かぼちゃの馬車や、ガラスの靴も出てきません。

けれど、鳥たちやハシバミの木が主人公の灰かぶりの願いを叶えるところは、魔法使いがシンデレラを助けるところに繋がるんだな、と思いました。

また、最後はご存知のとおりハッピーエンドなのですが、一部にとてもグロテスクな場面がありました。

こういったあたりに「グリム童話」が大人向けの話だったという事実を感じることができません。

図書館には「グリムの昔話」だけでなく、「アンデルセン童話集」なども入っています。

昔のディズニー映画は、童話が原作になっている作品が多いので、映画と原作の違いを見つけながら読むのも楽しいと思います。



新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。
グループ・ゼミ単位の館内ツアー（館内案内、資料の探し方）を受け付けていますので
カウンターにお申し込みください。

■レポート、論文作成の皆さん、図書館ホームページは、勉強をサポートします。

情報検索（データベース、CD-ROMなど）、インフォメーションなど役立つ情報が満載です。
ぜひ活用してください。



●Lexis.com・LexisNexisJPは、申込をすると自宅パソコンからも利用できます。
詳しくは図書館カウンターで問い合わせください。

平成21年度 図書館が実施・協力したイベントを紹介します。

■第2回学生選書の会～あなたの選んだ本を図書館に～

6月の第1回に引き続き、12月18日と1月15日に栄の書店にて学生の皆さんと一緒に
本を選んできました。図書が見つからないときは、OPAC検索したり、店内をあちら
こちら歩きながら気に入った本を選びました。

読みやすい話題の本、資格関係、料理、歴史、科学、人生論など図書館の蔵書に加わ
りました。3階カウンター横にありますので図書館に足を運んで読んでください。

平成22年度の選書会は、6月頃を予定していますが、皆さんが参加しやすい夏休み中の実施も考
えています。掲示板、HPのインフォメーションで案内しますので気軽に参加してください。



■講演会『山形の昔語りを聴く』

12月3日 1階エントランスホールにて人文科学
研究会主催の『山形の昔語りを聴く』が催され
ました。山形在住の渡部豊子さんが呐々（とつと
つ）と語る昔語りは、山形の言葉に馴染みがない
この地方の聴衆たちも引き込まれるものがありま
した。語り手と聴衆が、身近に座り聴くというアッ
トホームな感じで盛況のうちに終了しました。



■名経祭バザーに際してのお礼

平成21年度バザーに
際し、図書等を関係者
から多数ご提供して
いただきありがとうございました。
売上の一部で
『坂本龍馬事典』等学生
用図書を購入しました。



図書館だより Vol.59 2010.4

発行所 名古屋経済大学 図書館
名古屋経済大学短期大学部 図書館
発行 年2回
印刷所 株式会社 一誠社 TEL (052) 851-1171
〒484-0000 愛知県犬山市樋池 61-22 TEL (0568) 67-3798 (代)
ホームページ <http://www.nagoya-ku.ac.jp/lib/index.html>